

「神は世を愛された」

ヨハネによる福音書 第3章 16節～21節

説教 岡村 恒牧師

聖書全巻を要約したミニチュアバイブルとされている言葉が、本日、与えられた言葉です。この御言葉は、私たち一人一人の命に関わる事であり、あなたに向かって語りかけられているメッセージでもあります。

先程、讃美歌21の69番を讃美しましたが、この中で歌われている内容も同じです。2,000年前から教会は同じ言葉を聴き続け、神をほめたたえてきました。この福音の中味は、世の初めから変わらず、世の終わりまで永遠に変わらないのです。神の約束を信じる者がひとりも滅びないで永遠の命を得るために、御子の命が差し出されました。これが聖書全体が語るメッセージなのです。

ある教会に、この前の台風で天に召された、Sさんと言う姉妹がおられました。Sさんは教会の長老として、教会学校の校長として神に仕えて来た方でした。神を信じ、熱心に歩んで来た姉妹が、災害によって命を閉じる。この様なできごとが、私たちの上にも起こります。なぜ、神はこの様な事をなさるのかと思う様な事が起きます。私たちの人生には、なぜ？いつまで？と、神に問いたくなる事が起きますのです。聖書の中、たとえば詩篇にも、その様な問いかけや疑問を見る事ができます。

私たちは、神に疑問をぶつけながらも、自己中心的に生きようとし、神に対して不信仰な思いを抱いてしまいます。しかし、私たちの生き方はふたつしかありません。神が、私たちの人生全体を握っておられると信じて生きるのか、それ以外の生き方をするのかです。私たち人間は、世界が造られた初めから、光より闇を愛する者でした。アダムが、善悪を知る知識の木から取って食べてはいけないと言われた時からです。神は、神だけを信頼して生きて欲しいと呼びかけて下さったのに…。やがて、アダムは神の呼びかけに応えられなくなったのです。私たちも同じです。アダムのように、木の陰に隠れて生きる他ありません。恥ずかしく、悲しく、神の前になど立てないのです。

けれども、聖書は語ります。『神は、あなたを造り、あなたを愛しておられる』と。その愛は、ひとり子、イエス・キリストを手放しても良い。引替えにしても良いと思う程の愛なのです。

この話を初めに聴いたのはニコデモでした。パリサイ派のひとり、律法の専門家で、人々を指導する立場にあった人です。この人が夜中にイエス・キリストのもとを訪れて、神の国に入ることにについて尋ねたのです。(ヨハネによる福音書 3章1節～15節) 私たちも、聖書を読み、祈っても平安が与えられない時、主イエスに尋ねたくなります。主イエスは、「だれでも新しく生れなければ、神の国を見ることはできない」(同3章3節)と言われました。この言葉に反論するニコデモに向かって、主イエスは『わたしは天上の話をしているのだ』と言われました。あなたをもう一度新しく生まれさせて神の国に入れて下さるのは、神なのだと言われるのです。

『神は、あなたを愛しておられる。ひとり子を十字架に架けてまで、愛しておられる』と聖書は語っています。これは、ニコデモや私たちの人間的な思いや願い、期待を遙かに超えた神の愛の話です。人間の想定の内には留まるような愛ではなく、また、私たちが自分の力で獲得するような愛でもありません。神は、あなたを愛しておられ、あなたの祈りに応えて下さるお方なのです。

神は、神を真実の神として信じるという告白を聴き、私たちの罪を洗いよめて下さいます。私たちを、生きる者として下さるのです。神には、滅びべき私たちを救うことができになるのです。『神の愛の手の中で生きよ』と、仰るのです。そこには、新しい命があります。神を愛する者に、神の愛が豊かに注がれます。今朝の短い聖書の言葉には、神の思いが凝縮されているのです。

神は、御子イエス・キリストを地上にお遣わしになり、主イエスは私たちに代わって滅びと絶望を担って下さいました。それは、私たちが生きる為です。御子を信じる者が「永遠の命を得るため」にです。これが、神の愛し方です。神は、この世を、あなたを愛しておられます。あなたには、神の用意して下さいました道があります。どうか、この道を歩み始めて下さい。命と恵みに満ちた道です。主は救いのみわざを行って下さいました。私たちが安心して神の前に立つことができるようにして下さいました。

(記 説教要約奉仕者)